

カーネーションの多年切り栽培における 栽植密度および仕立て本数が品質収量に及ぼす影響

1. 試験のねらい

カーネーション栽培は、種苗コストが大きく（720,000円/10a）、また定植本数が多く（18,000本/10a）定植に労力を要することから、2年間同一株を利用する2年切り栽培が各地で試みられている。そこで、さらに低コスト化を目指すため、3年目以降も同一株で栽培する多年切り栽培の、栽培3年次に適した栽植密度、仕立て本数を明らかにする。

2. 試験方法

(1) 供試品種 スプレータイプ（中生系）「バーバラ」

(2) 処理内容

区	1㎡当り 栽植密度	平成17年 (栽培1年次)	平成18年 (栽培2年次)	平成19年 (栽培3年次)
1 多年切り栽培	36株/㎡	4本1ハーフ	6本2ハーフ	6本2ハーフ
2 "	36株/㎡	4本1ハーフ	6本2ハーフ	8本仕立て
3 "	24株/㎡	6本2ハーフ	8本2ハーフ	10本仕立て
4 2年切り栽培	36株/㎡		4本1ハーフ	6本2ハーフ
5 慣行栽培	36株/㎡			4本1ハーフ

多年切り株は、平成17年6月7日に定植し、定植14日後に6節で摘心を行い、処理に従い整枝し、8月中旬にハーフピンチを行った。2年次は、平成18年6月7日に10cm、3年次は平成19年6月11日に15cmの高さに切戻しを行い、7月下旬に処理に従い整枝し、8月下旬にハーフピンチを行った。

2年切り栽培株は、平成18年6月15日に定植し、平成19年6月11日に10cmの高さで切戻しを行い、慣行栽培は、平成19年6月13日に定植した。

養水分管理は点滴かん水施肥栽培で行った。施肥管理は定植時によりん（く溶性リン酸20%）で250g/㎡（成分50g/㎡）施用し、1年次は液肥で窒素50.5g/㎡、加里75.8g/㎡、2・3年次は窒素75.8g/㎡、加里113.7g/㎡を施用した。かん水管理はpF2.2を目標に行った。

温度管理は、昼間の換気温度を18℃、最低夜温12℃を目標に管理した。

3. 試験結果および考察

- (1) 栽培3年次の切戻し後の株生存率は、今回の処理による差は認められなかった（表 - 1）。
- (2) 栽培3年次の切り花品質は、栽植密度36株/㎡、6本2ハーフとすることで、慣行栽培（栽培1年次）、2年切り栽培（栽培2年次）と比較し切り花重がやや劣るものの、出荷には十分な品質を確保することができた（表 - 1）。さらに、目標とする220本/㎡以上（栃木県経営診断指標基準以上）の出荷可能本数を得ることができたことから、多年切り栽培における栽培3年次は実用性があると考えられた（図 - 1）。

4. 成果の要約

多年切り栽培の栽培3年次は品質、出荷可能本数ともに基準値以上となることから実用性があり、定植時の栽植密度は36株/㎡、3年次における仕立て本数は6本2ハーフが適する。

（担当者 園芸技術部 花き研究室 沼尾貴延）

表 - 1 カーネーション多年切り栽培3年次の切り花品質、収量、株生存率及び萌芽数

区	切戻し42日後		切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 ¹⁾ (mm)	輪数	下垂度 ²⁾	70cm 調製重 (g)	栽培終了時
	株生存率 (%)	萌芽数 ³⁾ (本/m ²)							株生存率 (%)
1	91.7	698.5	75.7	33.7	3.9	4.9	1.3	31.7	79.2
2	91.7	695.8	70.9	32.2	3.9	4.7	1.7	33.6	88.9
3	96.4	661.5	73.3	30.7	3.7	4.5	2.1	31.7	85.7
4	100	492.0	72.2	36.6	4.0	4.9	1.3	35.6	96.4
5	-	-	64.7	37.7	4.0	5.2	1.3	43.1	100

注1. 茎径は第5節間を測定。

2. 下垂度は最上花から45cmの位置を固定して水平にし、曲がり程度を測定した。

0~10°を1、11°~20°を2、21°~30°を3、31°以上を4とした。

3. 面積はベッド面積当たり。

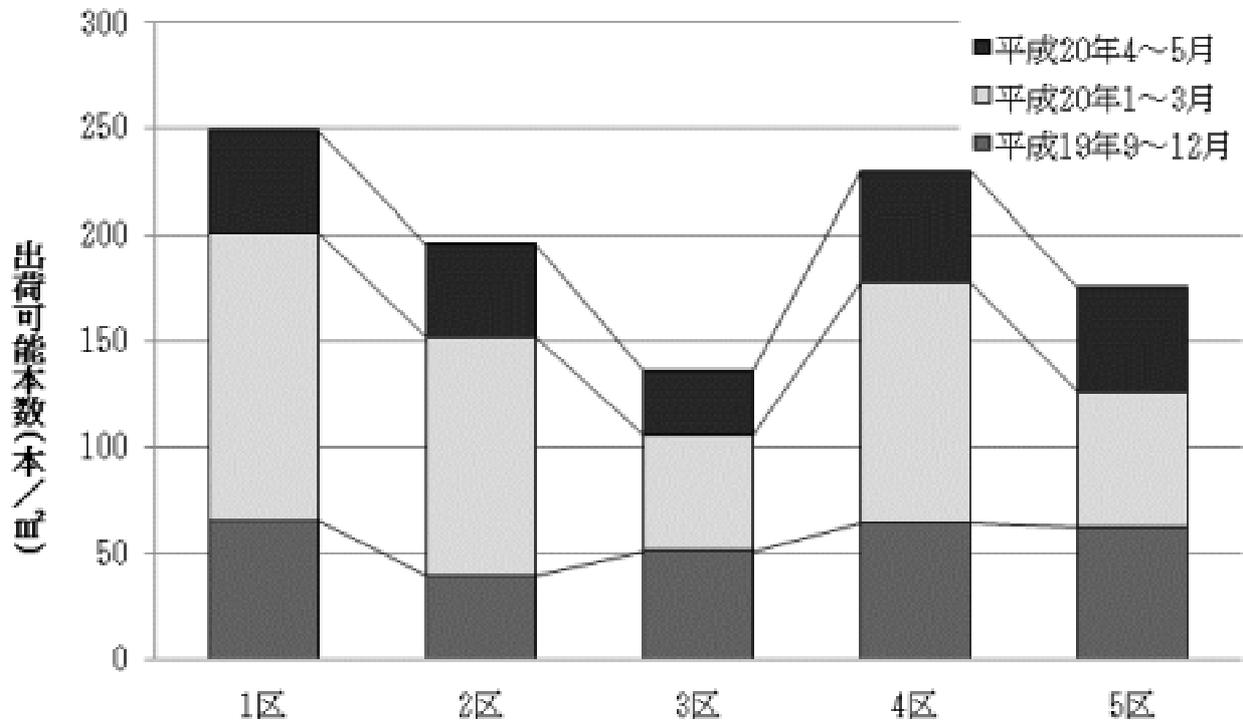


図 - 1 カーネーション多年切り栽培3年次の時期別出荷可能本数